

冤罪訴えた5人の日常追う

来月26日、加須で上映予定



2017年3月、袴田巖さん(左)の誕生日を祝う石川さん(左から2人目)、「布川事件」で11年に再審無罪となった桜井昌司さん(右)＝17年3月11日



映画「獄友」のチラシ

1963年の「狭山事件」で無期懲役が確定して服役し、仮釈放された石川一雄さん(79)ら冤罪を訴えてきた男性5人の日常を追ったドキュメンタリー映画「獄友」が、東京都のポレポレ東中野で上映中だ。県内でも5月26日、加須市の市民プラザかぞで上映される予定。「不運だったけど、不幸ではない」と話し、互いを「獄友」と呼び、無実を信じ懸命に生きてきた姿を映し出す。

石川さんは63年、狭山市で女子高生を誘拐、殺害した容疑などで逮捕された。64年に浦和地裁(現・さいたま地裁)で死刑判決を受け、77年に無期懲役が確定。94年に仮釈放されたが、31年間自由を奪われた。現在は妻早智子さんとともに無実を訴え、再審開始を求めている。

映画に登場するのは他に、66年に旧清水市(現静岡岡市清水区)で一家4人が殺害された事件で死刑判決を受け、2014年の再審開始決定で釈放された袴田巖さん(82)、「足利事件」で無期懲役となり10年に再

審無罪となった菅家利和さん(71)ら、「計155年」を獄中で過ごした5人。服役し、同じ苦しみを経験した者同士が無実を訴える中で交流を深め、互いに支え合い、獄中での経験を時に笑い飛ばす。そんな彼らの苦しみや友情が、ユーモアたっぷりに描かれている。

監督は、石川さん夫婦に密着した映画「SAYAM A みえない手錠をはずすまで」(13年)も制作した在日2世の金聖雄氏(51)。10年夏から7年間「獄友」たちに密着した。「彼らは突然殺人犯にされた。冤罪という重いイメージがあるが、シンプルに『やっていけないのやっただままとされるのはおかしいよな』と感してもらえたら」と話す。

全国で上映予定。映画に関する問い合わせはキム・ンフィルム(042・316・5567)。(笠原真)

2018年4月21日
朝日埼玉版